

日程	平成 22 年 2 月 24 日 15:30～16:00
訪問先	三重大学 伊賀研究拠点
担当者	伊賀市 産業振興部 農林振興課 主幹兼振興係長 小林氏
バイオマス利活用取組み概要	バイオマスタウン構想を策定しており、官民学が連携した「菜の花プロジェクト」として菜の花の栽培、搾油、商品化・販売および廃食用油の回収、BDF の製造、BDF 利用まで一貫して行っている。

1. 説明内容

伊賀市菜の花プロジェクトの概要

伊賀市の菜の花プロジェクトは官民学が連携した、バイオマスタウン構想のうちの 1 つのプロジェクトである。取り組みの流れとしては、まず菜の花を栽培し、なたね油を搾油し販売する。その次に廃食用油を自治会経由で回収し、BDF 製造機で BDF を精製する。製造された BDF は無償で地域に提供されている。

菜の花畑は現在 30ha 程度であり、将来は遊休地を活用して 100ha まで拡大する予定であり、観光にも利用する。回収方法としては、自治会の協力を得て既存のごみステーションで、雨が入らないようにしながら回収しており、現在の回収量は約 2 万 3,000L/年まで増えている。BDF 研究所を平成 20 年に整備し、製造した BDF は無償で地域に提供し、農機等に利用されている。平成 21 年には、なたね油の搾油施設を設置し、地産地消の商品開発を行っている。



(写真 1) 小林氏の講演の様子

プロジェクトの役割分担

本プロジェクトの役割分担として、三重大学は BDF 高度精製研究、グリセリン利用研究、技術指導を行っている。日本ソフトウェアサービス（ゆめテクノ入居）が施設運営と、遠隔モニタリング技術開発を行っている。日本ソフトウェアサービスは IT 関連企業で、今後のビジネス展開をにらんだモバイルでのモニタリング技術の開発をすることを目的として事業に参画している。伊賀市は、施設の設定と公的支援を行っている。このように官民学が連携した地域ぐるみの取り組みとなっている。

伊賀市 BDF 利活用高度化研究事業

伊賀市 BDF 利活用高度化研究事業として、三重大学を中心とした検討委員会が設置されている。この研究事業では、CO2 削減量、地域活性化効果の算定を検討していく。



(写真 2) 質疑応答の様子

2. 質疑応答

質問 1 : どのようなきっかけでこのプロジェクトをはじめたのか。

回答 1 : もともとの取り組みは 10 年前に旧上野市（現在は伊賀市と合併）廃食油の会がボランティアで廃食油を集めていたのが始まりであった。それを伊賀市が支援する形で、このプロジェクトは始まった。

質問 2 : 具体的にはどのように廃食油を集めているのか。

回答 2 : 各家庭に負担がないようにし、自治会のごみ置き場の屋根のあるところに蓋付きの缶を置いておき、住民にはペットボトルで持ってきてもらって、その場でその缶に入れるようにしてもらっている。

3. 所感

市民レベルから始まった菜の花プロジェクトを行政や大学・研究機関が協力し、それぞれが重要な役割を分担しているところに驚きを感じた。市民も積極的に廃食油の回収に参加し、大学・研究機関はより良い品質の BDF 等を開発し、行政はそれらをコーディネートし、加速させる。結果として、地球温暖化対策はもちろん、休耕田の解消、商品・システムの新規開発、地域活性化という様々な効果が創出されつつある素晴らしい事例であり、もっと多くの人に知っていただきたいと感じた。